

E—32 家政学における家族関係研究の諸問題
—日本家政学会総会研究発表要旨集の
分析—

女子栄養大 末広 和子

1. 研究動機は、家族に関する研究が家政学のみならず隣接諸領域で活発に行なわれ、その成果の実践場面への応用は、マスメディアを通じて広く大衆の啓発に資しているようにみえるところから、家族関係研究の問題を通して、家政学の本質と家政学研究者の社会的役割の再確認を試みたいと思うところにある。本研究では、家政学における家族関係研究の現状を、日本家政学会総会研究発表要旨集によって展望分析し、家政学における家族関係研究の課題とその実現方法について考察する資料とするものである。

2. 試料は、第9回総会から第18回までのを用い、その中から家族の立場にたつ「人」を主体とした研究のみをひろい、それを分析の試料とした。

3. 発表総数に対し試料として抽出したものは10%。研究内容を「人」によって分析した結果、夫婦や老人の問題はきわめて少なく、児童と主婦のが多い。研究事項の内容を物的、個人的、社会的と三分類した場合、社会的のがもっとも多い。研究方法では主婦を被験者とした質問紙法が多い。主婦と児童が中心となっている傾向等からみて、家政学における家族関係研究の目的の再確立と、研究者の考案作業の科学性について慎重な研究の必要が急務であることに気付いた。